

令和3年度第3回米沢市地域公共交通活性化協議会 会議録（要点筆記）

1 日 時 令和3年11月12日(金) 15:00～16:40

2 場 所 米沢市役所 301・302会議室

3 出席者（詳細別紙）

（委員）青柳秀夫委員、安部徹委員、石山秀一委員、今村元一委員、大河原真樹委員、河田亜依委員、黒須敬子委員、佐々木紀子委員（オンライン出席）、佐藤文俊委員、澤村和則委員（代理出席 加藤知美首席運輸企画専門官（オンライン出席））、鈴木正幸委員、高澤由美委員、高橋心委員、田中廣太郎委員、手塚剛委員、山田記子委員、吉田正幸委員、吉永和雄委員（代理出席 鷲尾仁主課長補佐）

※欠席者：阿部進一委員、植野みどり委員、太田和広委員、吉田一也委員

（事務局）遠藤企画調整部長、佐藤地域振興課長、神保高齢福祉課長、梅津観光課長（代理出席 堀内課長補佐）、穴澤土木課長、富取地域振興課長補佐、鈴木地域振興課長補佐、菊地主任、佐藤主任

※酒井オブザーバーは欠席

4 会議録

(1) 開会 司会：富取地域振興課長補佐

(2) あいさつ 副市長

より便利な、より使い勝手のいい公共交通を目指して、皆様からいろいろな御意見を頂き、やっと計画案が出来上がった。この案について、皆様から多くの忌憚のない御意見を頂戴したい。

(3) 議事

規定に則り、大河原会長が議長になり、議事に入る。

①米沢市地域公共交通計画（案）について

事務局が資料1から資料3により説明

委員等：大きな枠組みとしては異存ないが、4点ほど意見を述べたい。

1つ目はスケジュールについて、「米沢駅の誘導サイン等の改善」、令和4年度の1年をかけて検討となっているが、1年もかけずにできるのではないかと。視覚的に公共交通が変わっていくようすは、市民の期待の高さにも繋がってくると思うので、スケジュール的にすぐできることはどんどん進めていただきたい。

2つ目は「利用しやすさわかりやすさ改善プロジェクト」に関係することかもしれないが、ある30代の高畠町出身の方と話をしていたときに、その方が高校生の時は、高畠駅から南米沢駅まで電車を使っていて、冬

に、電車が遅れても全然情報を入手する手段がなく、南米沢駅にある米沢駅直通の電話で遅れているかどうか確認をして、その情報を共有していたという話を聞いて、今は Google や J R の「どこトレ」など、いろんな情報が自ら得ようと思えばたくさんあるが、わからない方はわからない。情報整備されるのは、もちろん重要なことだと思うのだが、それをユーザーにちゃんと届くような広報活動も一緒にしていただきたい。

3つ目、これはちょっとチャレンジなことになってしまうのかもしれないが、これも以前酒田市の方と話している時に、東北公益文化大の学生はまちなかを走るバスは半額、100 円で乗れると聞いた。以前は無料だったが、現在は 100 円にしているとのこと。学生にとって市民バス 210 円は意外と高いのではないかなと思う。目標で「交流を促す」ということが大きく掲げられているし、総合計画でも学生のまちづくりを非常に大きく掲げているので、学生がまちなかに出ていく手段としての公共交通ということを考えても、常時 100 円じゃなくても、例えば土日とか、夜、アルバイトに行く学生も多いのでそういった時間限定でもいいと思うので、運賃のこともご検討いただけるとありがたい。

最後に、個人的な希望だが私は市民バスをよく利用するが、「右回り」「左回り」と書かれてもどっちがどっちかよくわからない。例えば、駅から「上杉神社先回り」とか「市役所先回り」と書いてもらえるとわかるのだが、たぶんそれは観光客の方もよく聞いていると思う。「これはどっち先に行くのですか」と運転手に聞いているので、誰が見てもわかりやすいような表示をお願いしたい。

委員等：このプロジェクトには当社の路線バスも入っているので、皆様のご期待にこたえられるような経路設定、ダイヤの見直し等を本社と連携しながらやっていければと思っている。今年度になって、バスの乗り方教室を市内の小・中学生を対象に何校か実施させていただいた。置賜では初の試みだったが、本社の山形では年に複数回実施している。このたび米沢市から各学校に案内していただいたおかげもあり、今日も午前中塩井小学校に行ってきた。バスに乗り慣れていない子どもが多い中、こういう場を設けていただけると、バスに乗ってみようかなと思うかもしれないので、こういう取組を継続しながらやっていければと感じた。

委員等：案内サイン関係だが、米沢市と連携して J R 東日本としても、お客様目線に立ってしっかり見直しをしていきたい。

少子化が進み利用者也減っていき、当社も商売にならなくなるということで、駅もビジネスを生むところとしていろいろやっていかなければならないとなっている。公共交通として、米沢あたりは自家用車にはかなわない。そういったのを逆手にとって、駅をもっと利用しやすくするということは米沢市さんともしっかり連携をしてやっていかなければないと思っている。自家用車持っていないからバス、列車ではなく、日常の

移動手段として公共交通を選択していただきたい一方、冬になると遅延もあり不便な面もあるため、その辺も払拭できるようにしていきたい。先ほど列車の運行状況情報について「どこトレ」という話があったが、これはアプリではなく、検索すると「どこトレ」というサイトが出てくる。山形発米沢行の列車が今何分遅れていますという情報がすぐわかるようになっている。これはＪＲがしっかりＰＲしなければならないわけだが、鉄道だけではなく、バス、その他交通機関と連携して、しっかり情報が取れるようなＰＲや取組も必要なかなとつくづく感じている。

委員等：この計画案がうまくまとまったら、何か新しいまちができるのではないかと考えてわくわくした。便利にするという点だが、利用者を増やそうとしたときに、市内外の方が活発に利用してくれる必要があると思う。ふらりと立ち寄って米沢駅で降りた際にも安心しておでかけできるようになればよい。車内のWi-Fiの充実の話もあったが、バス車内での充電サービスの話も出るかもしれない。先ほどお得な運賃、例えば100円で乗れる日があったらいいのではという話もあったが、市民の方でも民間の方でも、その日に合わせたイベントを各地で行って巡るようなこともできたら面白いかなと思う。

委員等：私からは2点提案やコメントをさせていただきたい。

1点目だが、ＩＣカードがすごくいいと思った。今、結構現金を持たないで、カードや携帯だけで過ごす人がどんどん増えてきていると思う。ＪＲともどんどん連携して、米沢駅でも使えるようになったらいいと思った。

2点目は、バスを利用した観光情報ツールについて、先ほど半年に1度は変更作業が発生するため管理が大変という話があったが、紙ではなくウェブで、観光と連携して、バスとかレンタサイクルで米沢をまわるルートを提案するページを作り、観光客がすぐアクセスできるようにしたら、このルートで回ってみようかと思うのではないか。レンタサイクルはここで借りて、次はここでバスに乗って、などわかりやすくなればいいと思う。

最後にコメントだが、パターンダイヤ化することですごくわかりやすくして利用しやすくなると思った。これからも、より良くなっていきそうだなと思った。

委員等：のりあいタクシー事業で、山上、田沢、広幡地区で毎日のように使っている、この度の重点事業では乗用タクシーの活用という新たな取組が提案されており、乗合とは違った利便性があるので、私たちの事業継続の点からも、とてもありがたい事業だと思った。ぜひご協力させていただきたい。

それから観光関係の二次交通の問題もちょっと出ていたが、なかなかタクシーを使う方が少ない。せつかくのりあいタクシーを始めるにあたり、

乗合の免許を取得したので、その辺を利用した二次交通などをお手伝いできないものかと考えている。

委員等：公共交通の取組を進めていくに当たっては、道路交通の安全と円滑にも配慮していただきたい。利便性を追求するあまり、交通事故が起きてしまったということがないように留意していただきたい。

また、市民の特に高齢者の方々が気軽に活用できるという点は免許証の自主返納にも繋がっていくと思う。山形県は車の保有台数が多く、東北6県でも人身事故の発生率が最悪という状況もある。高齢運転者が関わる重傷事故や死亡事故等も決して少なくない。高齢運転者の方々が免許証の自主返納をして、公共交通機関を利用できるように推進していただきたい。

委員等：高齢者ドライバーへの対策、運転免許証を返納した高齢者の対策として、何かいい方法はないかと各コミュニティセンターの館長のあいだで話題になった。山上、田沢、広幡地区ではすでにのりあいタクシーを運行しているが他の地区にものりあいタクシーを導入する場合、どのように進めればいいのか、その辺を検討していただきたい。

委員等：私自身、今まで公共交通を実際利用した時期がごく限られていて、高校生ぐらいまでだった。今まではほぼ100%自家用車を使って、それがなければ通勤も何もできない環境である。想像するのは、これから車に乗れなくなったときに、どんな公共交通に乗れるだろうか考えると、タクシーを利用するのではないかと思う。おそらく、車に乗れなくなった頃にはバスにも乗れなくなるのではないか。列車にも当然乗れなくなると思う。そういった高齢者の方、車に乗れなくなる人の立場に立って、より広く、隅々まで広げていければ大変いいのではないかと思う。

委員等：計画について、大変わかりやすくまとめていただいて、また、相当考え抜かれた計画に仕上がっていると思う。

この3月に県全体の地域公共交通計画を策定し、その三本柱として①データの集約共有、②ICカードの利用導入等による移動のシームレス化、③国庫補助事業を有効に活用した公共交通事業の維持確保を掲げた。米沢市の計画においても連携して進めさせていただければと思う。

その中で冒頭の説明の中にあったオープンデータ化について、オープンデータ化のデータをGoogleや駅すばあと等の事業者を活用いただくことで、バス停をGoogleマップで表示したり、それに加えて路線検索も、「どこ」から「どこ」までと入れると、例えば福島からナセBAと入れれば、今度は米沢駅までだけでなく、バスが繋がっているナセBAのバス停まで、時間も含めて、停留所の位置も含めて表示されてくる。これまで経路検索や時間検索というと、駅まで、あとは徒歩表示のような感じだったが、これからは、最寄りのバス停まで表示されるため、相当使い勝手が良くなるのかなと期待している。県内でも米沢市がまもなく

表示されるようになるということだったが、県内各市町村でも順次整備される予定。

それから、ＩＣカードの導入について、いちいち小銭を払わなくても済むようにということで推進させていただいているが、それに当たっては山交バスでは来春の導入予定で、米沢市にも進めていただいている。今後とも連携して利便性向上等に取り組んでいきたい。

委員等：米沢駅を起点としたパターンダイヤ見直しは、よく使う方にとっていいと思った。またバス停について、コンビニエンスストアや周りの商店と共同して、バスの待合スペースを作るアイディアはとてもよい、雪の壁の裏側に体の悪い方、高齢者の方、小さなお子様が、雪の中で立って待つことがなくなり人の目も届くので、安全だと思った。乗降で苦勞される方にとって、人の目があることは、手を差し伸べていただける、やさしいまちになるという期待を持つことができた。また、バス停に屋根があるのはすごくいいと思う。それから、均一運賃制度の導入と乗用タクシーの定額制の利用については、年金受給者だとか、バス停までも到達できにくい方たちには、いいと思った。また、ＪＲのお話をお聞きして、どこトレがすごくいいと思った。こんないいサービスがあるのに、電話がかかってきて仕事にならないのだったら、南米沢駅と西米沢駅に端末を置き、それをみんなが見られるようになったらいいと思った。そして、バスはこんなに便利になった、米沢の公共交通はこんなにいい、こういうサービスがあるという情報が見られるようになったら、一番使う人たちに届くのではないかと思った。

委員等：米沢駅を起点としたパターン化ダイヤは大変素晴らしく、利用する可能性のある高校生も多くなるのかと思う。また、ナセＢＡには高校生がよく集まるので、交通拠点に設定されたことが非常にありがたいと思うし、利用する生徒が増えていくと思う。また、コンビニも立ち寄る高校生は非常に多いと思うので、そこでの待合スペース確保も非常にいい提案でないかと思う。この提案で、高校生がバスを利用しながらまちに溢れていくことも可能なのかと感じている。

ただ、高校生は自転車を使うのが当たり前。どこに行くにしても、家族の送迎が先に出るという現状があると思う。私たちはこれでしか使えないという固定概念が変わるような仕掛けを作っていければいい。例えば、イベントの時に、この期間は１００円で運行し、１週間やってみて、バスが選択肢に入れられるような仕掛け。決して高校生は送ってもらうことがいいとは思っておらず、自分は交通弱者だと思っているようだ。自分が自由に動いていけることは本当に楽しいことだろうと思うので、決して不可能なことではなく、そういった視点からも、もう少し利用促進策を考えていただきたい。

委員等：高齢者の運転免許証の自主返納の話があったが、高齢化が進みだんだん

と運転ができなくなり、孤独になり、1人で過ごされる方も多い。私は地区委員をやっているが、担当地区では誰も家族もいない、1人で生活している方が46名いる。その人たちが免許証を返納された場合、誰が病院に連れて行くなど生活をカバーすべきか考える時代がきている。当地区ではのりあいタクシーが運行しているが、なかなか1人では買い物に行けないという方も、近所と連絡し一緒にいきましょと、利用している方もいる。また、小中学校の統廃合の話も進んでいるが、児童生徒をのりあいタクシーで移動させるかどうかの話もある。地区として、意見を出し合いながら良い方向に進んでいければと感じている。大学生の委員から、ICカードがすごくいいという話があったが、若い人たちはICカードもデジタル化もわかるが、我々高齢者にはなかなか理解できておらず、利用する機会もないので、そういった点も考えていただきたい。問題は多々出てくるが、今後とも皆さんとともに考えながらいい方向に進んでいくように期待したい。

委員等：ICカードの活用など、私自身、活用できたらすごく便利だと思っていた。せっかく米沢には大学がたくさんあるので、大学生が公共交通を利用するきっかけになると思う。学生の間で聞くのが、もう少し遅い時間まであったらいいというもの。アルバイトの関係など、車を持っている学生は少なく、徒歩や自転車が多い。

バス会社には負担とかいろいろな問題があると思うが、そういった面も今後考えていければ学生がもっと利用するきっかけになるのでは思う。個人的な話になってしまうが、今卒業研究をしていて、公共交通などの取組をすることによって、市民の人に、市に対しての誇りが生まれたり、アイデンティティーが生まれるということを研究として学んでいるところだ。こういった案が実際に実施されるようになったら、学生はじめ多くの市民が市に対して誇りとか愛着を持つようになるのかなと思う。これからの米沢が楽しみだ。

委員等：私からは大学関係ということで、今回大学の講義の時間や、まちなかに出ていくという、学生の利便性に配慮した計画が増えることに対して、感謝申し上げたい。

大学は主に南回り線の利用が多い。2024年に再編ということだが、通学時の利便性向上のためのダイヤやルートの見直しなど、特に学寮にも配慮いただきたく、相談できればと思っている。

二つ目だが、「循環右回り、左回り」「循環南回りの右回り左回り」などわかりやすさというのは大切だと思う、例えばネーミングなどでもうちょっとわかりやすさを出すようなこともできるのかなと考えたところだ。私も4月から初めてこの職場に来て、間違えて乗ってしまった。本来赤いバスに乗るべきところ、青いバスに乗ってしまった。

三つ目だが、利用促進の点、公共交通が環境にやさしいという視点だが、

自家用車をいっぱい走らせるより、公共交通をみんなで利用した方がCO2排出量は少ない。米沢市はゼロカーボンシティ宣言をされ、SDGs未来都市にも選定されているわけだが、そういった環境にやさしい公共交通というような視点で、利用促進を図っていくこともあると思う。

EV化も国で進められている。バスなども山形県だとまだないが、東北の盛岡だとEVバスも走っている。そういったところも参考になるかと思う。

委員等：資料に自家用自動車の保有台数のデータがあったが、山形県の世帯あたりの自家用車の保有台数が、非常に高い、全国でも、上から数えて3番目というデータになっていると思う。一家複数台自家用車があるのが普通、家によっても本当に2台から3台とか、車をお持ちのご家庭もある、ただその車の中でも、実際に週末しか動いてない車、2台目以降で、使用頻度が低い車もあるのでは思う。自動車の維持費から見ると、非常に無駄なコストがかかっていると思う、車の自家用車の保有台数自体を減らす取組として、今カーシェアリングという、新しい取組が始まっているかと思う。自家用車の保有自体が減れば、渋滞も減るし、先ほど話があった、交通事故も減ります環境にやさしいということで、自家用車の利用が高い地方こそ、このカーシェアリングの普及効果が高いと思う。カーシェアリングはまだまだ認知、普及が進んでないという状況の中で、米沢市に馴染むのかというのはわからないが、その辺の状況とか、もし何かご一考などもあれば参考にお聞かせいただければと思う。

委員等：まず、この計画案を見せていただいて非常によくまとまっているなと感じた。とてもすばらしい計画になったなというふうに思う。

これも皆さん、委員の皆さんからいただいたご意見などを十分に咀嚼して、計画に落とし込んでいただいた成果かと思う。大事なのはこれから先である、キーワードは、「連携」と「協調」と思っている。観光、健康、福祉、環境など公共交通は様々な分野に大きく関わるし大きな効果を表すものでもあると感じているので、それらをうまく使って地域活性化につなげてほしい。

もう一つ、米沢駅のサイン見直しは、しっかり協議をすれば、来年早々にできるのではないかと感じている、ぜひスケジューリングをしっかりと見直しをしてやってほしい。

最後に、皆さんから出たが、公共交通なのでわかりやすさと優しさは非常に大事だと思う。バス停の名前について、「上杉神社前」ならわかるが「何とか何丁目」と言われても、市民の私でさえどこにあるのかわからない。また、これから雪が降ってくるので、ぜひ、屋根のあるところにバス停を置くなど、ちょっとした工夫でも使いやすくなるのではと感じた。

会長：答えられるもの、検討するものなど整理した上で事務局に回答願いたい。

事務局：最終的にはきっちり整理をさせていただき、まとめてお示しするが、何点か気づいたところをコメントさせていただければと思う。

○米沢駅のサイン見直しをすぐにできないかという意見について、前倒してできないか検討したい。

○学生の料金が低いという点については、県立大などは回数券の購入費補助をされているという話も聞いているので、状況を聞きながら、料金について検討していきたい。

○「右回り左回り」の名称がわかりにくいという点については、早急にやり方を検討し、できるところから検討していきたい。

○バスの乗り方教室について、来年度から小学校を中心にやっていきたいと思うので、ぜひ交通事業者の協力をお願いできればと思っている。

○「どこトレ」の連携について、ぜひＪＲと連携しつつ、便利に使えるよう検討していきたい。

○新しい利用者を増やすための取組について、観光との連携も重要だと考えているので、庁内で対応していきたい。

○車内の無料 Wi-Fi について、山交バスと市民バスの全ての車両で始まっているが、充電設備の意見もいただいたので、可能かどうか検討していきたい。

○各種イベントなどでの割引運賃などについても、検討していきたい。

○ＩＣカードについて、来春導入予定だが、ＪＲとの Suica の連携もさらに深めていきたいと考えている、

○乗用タクシーの活用について、事業が拡大していく中でタクシー業界の皆様の御協力が不可欠になるので、ぜひ御協力願いたい。

○交通事故防止のため、道路の安全性にも配慮していただきたいという意見について、建設部門など関係者で連携して進めていきたい。

○高齢者ドライバーの対策のためのデマンドタクシーの活用について、来年度以降、地域の中に市がしっかり入り、こういった形が望ましいのかということを検討していく。地域の皆様と一緒に進めさせていただきたい。

○車に乗れなくなると、バスにも乗れないという意見について、たしかに弱い立場に立った視点が必要と思っている。今回の地域公共交通計画の中ではなかなかそこを深く踏み込んでいないが、今後に向けて継続して検討していきたい。

○ＩＣカードの導入について、県とはオープンデータ等も含め連携させていただきたいと考えている。

○バス停付近のコンビニの活用について、コンビニもそうだがスーパーの活用も検討しており、フードコートのような休憩スペースを利用させていただけないか、地元で立地するスーパーの方とも話をしながら検討していきたい。

- ナセBAの交通拠点の設定について、今後一方通行の解除等もあるので、そういった動きの中でしっかり対応していきたい。
- 運賃の問題について、事業者から路線バスの上限運賃を設定した事例をお聞きした。上限運賃を安くすることで、利用客が逆に伸び、相対的な収支は逆に良くなったとのこと。運賃を安くして利用者を増やすことによって、全体的な収支は変わらない、又は改善するという効果も踏まえながら検討していきたい。
- 市の総合計画「ひとが輝き創造し続ける学園都市・米沢」を目指してほしいという意見について、上位計画である市総合計画の理念も反映した地域公共交通計画、事業実施につなげていきたい。
- もう少し遅いバスの時間がほしいという意見について、今後、循環バス南回り路線を中心とした路線の改善を、学生の意見を聞きながらやっていきたいと考えている。そのために市内の大学生を対象にアンケート調査を実施する予定。
- 環境にやさしい視点について、計画にはSDGsの視点も入れており、また、企業等へのノーマイカーデーの取組も計画の中に入っているので、環境の視点からの公共交通利用についてもしっかり対応していきたい。なお、EVバスの導入について、事業者にお聞きすると、寒冷地ではまだまだ使いにくい状況だとお聞きしている。今後技術の進歩に合わせてEVバスの導入を考えていかななくてはいけないと思っている。
- カーシェアリングについて、おそらく市内ではカーシェアリングをしている事業者はいないと思うが、今後研究していきたい。
- 官民連携、特に市の内部の連携が、他の計画との絡みで重要だという意見について、市長からも、新庁舎になってオープンスペースになり、職場間の壁を取り払いながら業務を進めるよう指示を受けているので、各種計画、特に立地適正化計画や都市計画マスタープラン、その他福祉、観光などの計画とも連携していきたい。
- バス停の名称や位置について、こちらはすぐにでも検討を進める話だと思っているため、改善に向けて善処していきたい。

会 長：その他、関係課からも一言お願いしたい。

事 務 局：中心市街地の一方通行解除の件について情報提供したい。現在の進捗状況は、ナセBA南側の交差点から西側に向かって、県道米沢猪苗代線までの区間の工事を進めている。工事は完了しても、今冬はこれまでどおり一方通行のままだが、来春には解除できればと米沢警察署や公安委員会等と協議を進めている。他方、ナセBA南側の交差点から東側に向かって、旧大沼米沢店までの道路については、継続して少しでも早い時期に一方通行を解除できるよう、現在も関係者と協議を進めている状況である。

事務局：委員の皆様のご意見をお聞きすると、福祉の視点からも、高齢者・障がい者に向けての公共交通は本市のようなまちでは必要と感じている。ただし、障がいの程度や高齢者でもその動ける範囲は様々なので、その方一人一人に合った施策はなかなか難しいと考えている。免許返納など待ったなしの部分もあるが、これからは福祉部門も公共交通部門に意見を様々出させていただきながら、高齢者・障がい者が過ごしやすい米沢にしていきたいと思う。

事務局：地域公共交通の活性化と観光の振興は連動していると考えている。米沢の方も様々なイベントがある中で、どうしても駐車場が足りないという状況があるため、公共交通の利用も連携して考えていきたい。また、バスとレンタサイクルを使った周遊プランのWeb上での掲載について、まさしく我々もそのようなことができればいいと考えていたので、今後関係機関と協力・御意見をいただきながら前向きに進めていきたいと考えている。

会長：委員の皆様から良い評価をいただいたと思う。「わくわく」「何か便利になりそう」「やさしいまちになる」「楽しみだ」など本当にうれしくなる言葉をたくさんいただいた。一つ、御意見をお聞きしながら思ったのだが、バスの乗り方教室について、小学校だけでなく、中学・高校・大学・高齢者も対象にしたらどうか。というのも、私自身、ＩＣカードが難しく、東京に行ったとき使えなかった。例えばイベントとしてバス無料の日を設定し、バスの乗り方やＩＣカードの使い方を車内で大学生が丁寧に指導するのはどうか。先ほどの言葉を借りれば、わくわくして楽しくなりそうな、やさしいまちになるのではと思った。

②今後のスケジュールについて

事務局が資料４により説明

委員からの意見質問はなし

(4) その他

事務局が資料５から資料６により説明

委員からの意見質問はなし

(5) 閉会

以上